



2024年9月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2024年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社FOOD & LIFE COMPANIES

コード番号 3563

URL <https://www.food-and-life.co.jp/>

代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 水留 浩一

問合せ先責任者（役職名） 執行役員（氏名） 吉田 剛（TEL）06-6368-1001

四半期報告書提出予定日 2024年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2024年9月期第1四半期の連結業績（2023年10月1日～2023年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する 四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第1四半期	85,533	25.8	6,123	290.1	5,732	431.6	3,429	380.8	3,257	385.6	2,852	—
2023年9月期第1四半期	68,004	△5.0	1,570	△71.3	1,078	△79.5	713	△79.0	671	△80.2	△219	—

	調整後EBITDA		基本的1株当たり 四半期利益		希薄化後1株当たり 四半期利益	
	百万円	%	円	銭	円	銭
2024年9月期第1四半期	9,143	81.4	28.15	—	27.94	—
2023年9月期第1四半期	5,039	△38.2	5.80	—	5.77	—

（2）連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に 帰属する持分		親会社所有者 帰属持分比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	%	
2024年9月期第1四半期	354,645	—	73,038	—	72,468	—	20.0	
2023年9月期	351,619	—	72,659	—	72,268	—	20.1	

（注）2023年9月期については、IAS第12号（改訂）「法人所得税」適及適用後の数値を記載しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年9月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 22.50	円 銭 22.50
2024年9月期	—	—	—	—	—
2024年9月期（予想）	—	0.00	—	22.50	22.50

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年9月期の連結業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上収益		調整後EBITDA		営業利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	350,000	16.0	26,000	1.3	11,500	4.5	6,500	△17.7	56.19	—

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) 北京寿司郎餐飲有限公司、除外 1社(社名) -

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無

- (3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年9月期1Q	116,069,184株	2023年9月期	116,069,184株
2024年9月期1Q	370,884株	2023年9月期	382,884株
2024年9月期1Q	115,687,917株	2023年9月期1Q	115,675,062株

- (4) 各種指標の算式

指標	算式
調整後EBITDA	営業利益+減価償却費及び償却費(使用権資産の減価償却費を除く)+減損損失

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	5
(2) 要約四半期連結損益計算書	6
(3) 要約四半期連結包括利益計算書	7
(4) 要約四半期連結持分変動計算書	8
(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報)	11
(販売費及び一般管理費)	12
(1株当たり利益)	12
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され、行動制限が撤廃されたこと等から、人の動きに回復傾向がみられ、エネルギー価格の高騰や円安の進行には落ち着きが見られるようになった一方で、様々な物価や人件費等が段階的に引き上げられているのみならず、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化に加え、中東情勢の緊迫化等により先行き不透明な状況が続いております。

外食業界におきましても、同様に様々な物価や人件費等の段階的な引き上げ、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、中東情勢の緊迫化等により引き続き厳しい状況になっております。

このような状況の中、当社グループでは、「変えよう、毎日の美味しさを。広めよう、世界に喜びを。」をVISIONとして、日々の食を美味しくすることで、お客様の生活や人生までゆたかにしたいという願いに向けて、商品開発、店内調理、安心・安全の取り組み及びサービスの向上に取り組んで参りました。

業態別店舗数は以下のとおりであります。

[当社グループ業態別店舗数]

業態名	前連結会計年度末	出店実績	閉店実績	当第1四半期連結会計期間末
国内：スシローブランド (テイクアウト専門店)	653(12)	4	9(2)	648(10)
国内：杉玉ブランド(FC)	79(17)	3(1)	2(1)	80(17)
国内：京樽ブランド	137(—)	1	2	136(—)
国内：回転寿司みさき・ 三崎丸ブランド	95(—)	—	1	94(—)
国内：その他ブランド	22(—)	—	1	21(—)
国内合計	986(29)	8(1)	15(3)	979(27)
海外：スシローブランド (テイクアウト専門店)	132(—)	11	—	143(—)
海外：その他ブランド	5(—)	1	1	5(—)
海外合計	137(—)	12	1	148(—)
国内外合計	1,123(29)	20(1)	16(3)	1,127(27)

() 内は内数でテイクアウト専門店・FCの店舗数

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上収益85,533百万円（前年同期比25.8%増）、営業利益6,123百万円（前年同期比290.1%増）、税引前四半期利益5,732百万円（前年同期比431.6%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益3,257百万円（前年同期比385.6%増）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

(国内スシロー事業)

国内スシロー事業につきましては、より楽しく、より便利なお食事体験の実現を目指して、スシローでは、一部店舗で新しい店舗モデルのトライアルを実施しております。流れるすしがデジタルレーンで復活し、景品がもらえるミニゲームも搭載した「デジタル スシロー ビジョン」（通称：デジロー）を導入することで、お客様に新たな店舗体験を提供して参ります。

業績向上に向けた取り組みとして、「40周年！大大大大感謝祭り」では、「大切りめばち鮪」や「本鮪中とろ」を1皿100円で提供し、「おばんちゅうさぎ」とのコラボでは、コラボ限定グッズ付きのオリジナルメニュー、限定Tシャツとお食事券が当たるSNSキャンペーンの企画をお客さまにお楽しみいただき、「大大大大感謝のかに祭」では、「生本ズワイ蟹」や「タラバ蟹包み」、「かに松前包み」などをご堪能いただきました。

以上の結果、国内スシロー事業の売上収益は58,638百万円（前年同期比25.6%増）、セグメント利益は4,456百万円（前年同期はセグメント利益39百万円）となりました。

(海外スシロー事業)

海外スシロー事業につきましては、2023年8月から開始されたALPS処理水放出による輸入規制および風評被害を受けて、中国大陸を中心に客数が落ち込みました。処理水放出の影響は一時的と見ており、集客力回復に向けて効果的な施策を検討して参ります。

そのような環境の中、インドネシアへ1号店を出店し、初進出いたしました。その他の地域では、中国大陸において広州、深圳、成都で合計5店舗、台湾1店舗、香港3店舗、タイ2店舗と、新規出店を継続しております。

また、来店客数の維持・拡大に向けて、とろフェア（中国大陸）、エレガントなスシロー味食会（韓国）、厳選祭（台湾）、とろ祭（香港）、秋祭り（シンガポール）、炙りネタととろ祭り（タイ）など、魅力的な販促・マーケティング政策を各地域で継続的に実施いたしました。

以上の結果、海外スシロー事業の売上収益は19,068百万円（前年同期比37.7%増）、セグメント利益は1,042百万円（前年同期比5.5%減）となりました。

(京樽事業)

京樽事業につきましては、2023年10月1日より、グループ会社である株式会社FOOD & LIFE INNOVATIONSと本社機能を統合し、グループの業務効率化を図るとともに、両社が保有する各種機能・強み・アセットを相互活用することを進めております。

京樽ブランドでは、リブランディングを図る店舗リニューアルを進めており、伝統を継承しつつも現代にマッチしたブランドに進化すべく各種取り組みを実施し収益力の強化を図るとともに、不採算店を閉店する等による収益力の改善を進めております。また、12月には正月に向けた京樽の懐石おせちをたくさんのお客様にご購入いただきました。

みさきブランドでは、前期に改良した赤シャリや各種販促が好評で売上は順調に推移しました。また、「すしみさき」へのブランド転換を引き続き継続しております。加えて、店舗オペレーションの効率化を実施するとともに、接客の強化を図ることで店舗体験価値の向上に努め収益力の強化を進めて参ります。

以上の結果、京樽事業の売上収益は6,262百万円（前年同期比1.1%減）、セグメント利益は106百万円（前年同期はセグメント損失173百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

前連結会計年度末の数値については、IAS第12号（改訂）「法人所得税」遡及適用後の数値を記載しております。

①資産、負債及び資本の状況

(資産)

総資産の残高は、前連結会計年度末に比べ3,026百万円増加し、354,645百万円となりました。

流動資産の残高は、前連結会計年度末に比べ3,545百万円増加し、74,947百万円となりました。これは主に、営業債権及びその他の債権が3,985百万円増加し、棚卸資産が1,562百万円増加した一方で、現金及び現金同等物が3,289百万円減少したこと等によるものであります。

非流動資産の残高は、前連結会計年度末に比べ519百万円減少し、279,698百万円となりました。これは主に、減価償却費の計上等により有形固定資産が759百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,646百万円増加し、281,606百万円となりました。

流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べ13,908百万円減少し、67,583百万円となりました。これは主に、社債の償還に伴い、社債及び借入金が19,998百万円減少したこと等によるものであります。

非流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べ16,554百万円増加し、214,023百万円となりました。これは主に、社債の発行により、社債及び借入金が18,492百万円増加したこと等によるものであります。

(資本)

資本合計は、前連結会計年度末に比べ380百万円増加し、73,038百万円となりました。これは主に、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上により3,257百万円増加した一方で、利益剰余金が配当金の支払により2,603百

万円減少したこと等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ3,289百万円減少し、47,939百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、11,229百万円（前年同期比73.9%増）となりました。

これは主に、税引前四半期利益5,732百万円、減価償却費及び償却費7,249百万円、減損損失283百万円の計上、営業債務及びその他の債務の増加が4,871百万円あった一方で、営業債権及びその他の債権の増加が3,929百万円、棚卸資産の増加が1,576百万円、法人所得税の支払額が986百万円、賞与引当金の減少が1,020百万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、5,520百万円（前年同期比33.9%増）となりました。

これは主に、新規出店等に伴う有形固定資産の取得による支出が4,493百万円あったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、8,724百万円（前年同期比15.2%増）となりました。

これは主に、社債の償還による支出が20,000百万円、社債の発行による収入が19,494百万円、リース負債の返済による支出が4,705百万円、長期借入金の返済による支出が1,002百万円、配当金の支払額が2,517百万円あったこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年11月10日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。なお、連結業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、景気動向等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	51,228	47,939
営業債権及びその他の債権	12,457	16,442
棚卸資産	3,965	5,526
その他の金融資産	1,389	1,909
その他の流動資産	2,363	3,130
流動資産合計	71,401	74,947
非流動資産		
有形固定資産	176,615	175,857
のれん	30,371	30,371
無形資産	56,332	56,384
持分法で会計処理されている投資	52	52
敷金及び保証金	14,257	14,213
その他の金融資産	417	653
繰延税金資産	1,490	1,490
その他の非流動資産	682	679
非流動資産合計	280,217	279,698
資産合計	351,619	354,645
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	30,080	34,358
社債及び借入金	24,007	4,009
未払法人所得税	1,070	2,392
リース負債	17,901	18,022
その他の金融負債	1,362	1,445
引当金	3,136	2,050
その他の流動負債	3,935	5,307
流動負債合計	81,491	67,583
非流動負債		
営業債務及びその他の債務	23	23
社債及び借入金	64,952	83,444
リース負債	114,689	112,695
その他の金融負債	111	111
引当金	4,363	4,378
繰延税金負債	13,330	13,363
その他の非流動負債	—	8
非流動負債合計	197,468	214,023
負債合計	278,960	281,606
資本		
資本金	100	100
資本剰余金	15,676	15,637
利益剰余金	53,787	54,441
自己株式	△1,840	△1,781
その他の資本の構成要素	4,544	4,071
親会社の所有者に帰属する持分合計	72,268	72,468
非支配持分	391	570
資本合計	72,659	73,038
負債及び資本合計	351,619	354,645

(2) 要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
売上収益	68,004	85,533
売上原価	△30,223	△37,526
売上総利益	37,780	48,007
販売費及び一般管理費	△35,915	△41,622
その他の収益	708	104
その他の費用	△1,004	△366
営業利益	1,570	6,123
金融収益	8	59
金融費用	△471	△451
持分法による投資損失	△29	—
税引前四半期利益	1,078	5,732
法人所得税費用	△365	△2,302
四半期利益	713	3,429
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	671	3,257
非支配持分	43	172
四半期利益	713	3,429
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	5.80	28.15
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	5.77	27.94

(3) 要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
四半期利益	713	3,429
その他の包括利益		
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△932	△578
純損益に振り替えられる可能性のある項目 合計	△932	△578
税引後その他の包括利益	△932	△578
四半期包括利益	△219	2,852
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	△260	2,673
非支配持分	41	179
四半期包括利益	△219	2,852

(4) 要約四半期連結持分変動計算書

前第1四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

(単位: 百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の構 成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2022年10月1日時点の残高	100	15,692	47,579	△1,894	3,639	65,117	18	65,134
会計方針の変更による累積的影響額			766			766	2	767
会計方針の変更を反映した当 期首残高	100	15,692	48,345	△1,894	3,639	65,882	19	65,902
四半期利益			671			671	43	713
その他の包括利益					△931	△931	△1	△932
四半期包括利益合計	—	—	671	—	△931	△260	41	△219
自己株式の処分		△12		14	△2	1		1
自己株式の取得				△0		△0		△0
新株予約権の失効		11			△11	—		—
株式に基づく報酬取引					113	113		113
配当金			△2,603			△2,603		△2,603
所有者との取引額合計	—	△1	△2,603	14	101	△2,489	—	△2,489
2022年12月31日時点の残高	100	15,691	46,413	△1,880	2,809	63,133	61	63,194

当第1四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)

(単位: 百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の構 成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2023年10月1日時点の残高	100	15,676	53,787	△1,840	4,544	72,268	391	72,659
四半期利益			3,257			3,257	172	3,429
その他の包括利益					△584	△584	7	△578
四半期包括利益合計	—	—	3,257	—	△584	2,673	179	2,852
自己株式の処分		△39		59	△14	5		5
自己株式の取得				△0		△0		△0
株式に基づく報酬取引					126	126		126
配当金			△2,603			△2,603		△2,603
所有者との取引額合計	—	△39	△2,603	59	111	△2,472	—	△2,472
2023年12月31日時点の残高	100	15,637	54,441	△1,781	4,071	72,468	570	73,038

(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	1,078	5,732
減価償却費及び償却費	6,340	7,249
減損損失	984	283
金融収益	△8	△59
金融費用	471	451
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△803	△1,020
敷金及び保証金の家賃相殺額	67	62
持分法による投資損失	29	—
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△3,174	△3,929
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△816	△1,576
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	2,242	4,871
その他	685	552
小計	7,095	12,614
利息及び配当金の受取額	8	28
利息の支払額	△298	△428
法人所得税の支払額	△347	△986
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,459	11,229
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,738	△4,493
有形固定資産の売却による収入	—	1
無形資産の取得による支出	△152	△235
定期預金の預入による支出	—	△1,095
定期預金の払戻による収入	—	657
敷金及び保証金の差し入れによる支出	△320	△259
投資有価証券の取得による支出	—	△235
その他	86	139
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,123	△5,520
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の償還による支出	—	△20,000
社債の発行による収入	—	19,494
長期借入金の返済による支出	△1,002	△1,002
リース負債の返済による支出	△4,060	△4,705
支払手数料の支払による支出	—	△3
自己株式の取得による支出	△0	△0
新株予約権の行使による収入	0	5
配当金の支払額	△2,511	△2,517
その他	2	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,571	△8,724
現金及び現金同等物の減少額	△5,235	△3,016
現金及び現金同等物の期首残高	50,637	51,228
現金及び現金同等物に係る換算差額	△514	△274
現金及び現金同等物の四半期末残高	44,888	47,939

(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要性がある会計方針は、以下を除き前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

当社グループは、当第1四半期連結会計期間より、以下の基準を採用しております。

基準書	基準名	新設・改訂の概要
IAS第12号 (改訂)	法人所得税	繰延税金資産及び繰延税金負債の当初認識の免除規定に係る改定
IAS第12号 (改訂)	法人所得税	「国際的な税制改革-第2の柱モデルルール」を導入するために制定又は実質的に制定された税法から生じる法人所得税に関する開示

IAS第12号(改訂)「法人所得税」(2021年5月改訂)の適用により、取引時に同額の将来加算一時差異と将来減算一時差異を生じさせる取引に関する当初認識時の会計処理が明確化され、当該将来加算一時差異と将来減算一時差異について繰延税金負債及び繰延税金資産が連結財政状態計算書にそれぞれ認識されることとなります。

同基準の適用により、前連結会計年度の連結財務諸表を遡及修正しております。その結果、要約四半期連結財政状態計算書の前連結会計年度末において、「繰延税金資産」が937百万円、「繰延税金負債」が23百万円、「利益剰余金」が912百万円、「非支配持分」が3百万円それぞれ増加しております。

なお、同基準の適用による累積的影響額が反映されたことにより、要約四半期連結持分変動計算書において、前第1四半期連結会計期間の「利益剰余金」の期首残高が766百万円、「非支配持分」の期首残高が2百万円それぞれ増加しております。

(セグメント情報)

①報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、主に事業別のセグメントから構成されております。

各報告セグメントに含まれる主要ブランドは以下のとおりであります。

国内スシロー事業：国内で展開する「スシロー」及びテイクアウト専門店

海外スシロー事業：海外で展開する「スシロー」及びテイクアウト専門店

京樽事業：株式会社京樽が運営する全ブランド（主要ブランド「京樽」・「回転寿司みさき」・「海鮮三崎港」）

その他事業：株式会社FOOD & LIFE INNOVATIONS が運営する全ブランド(主要ブランド「杉玉」)

②報告セグメント売上収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる売上収益及び業績は以下のとおりです。

前第1四半期連結累計期間（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額合計 (注) 2	連結合計
	国内スシロー事業	海外スシロー事業	京樽事業	その他事業			
売上収益							
外部収益	46,680	13,845	6,213	1,265	68,004	—	68,004
セグメント間収益	—	—	116	5	120	△120	—
計	46,680	13,845	6,329	1,270	68,124	△120	68,004
セグメント利益又は損失(△は損失) (注) 1	39	1,102	△173	△29	939	630	1,570
その他の項目							
減価償却費及び償却費	4,051	1,614	400	151	6,216	124	6,340
減損損失	861	98	26	—	984	—	984

(注) 1. セグメント利益又は損失は要約四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額630百万円には、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社損益が含まれております。

当第1四半期連結累計期間（自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額合計 (注) 2	連結合計
	国内ス ロー事業	海外ス ロー事業	京樽事業	その他事業			
売上収益							
外部収益	58,638	19,068	6,254	1,573	85,533	—	85,533
セグメント間収益	—	—	7	17	24	△24	—
計	58,638	19,068	6,262	1,589	85,557	△24	85,533
セグメント利益 (注) 1	4,456	1,042	106	58	5,661	462	6,123
その他の項目							
減価償却費及び償却費	4,014	2,454	422	167	7,057	192	7,249
減損損失	224	—	34	24	283	—	283

(注) 1. セグメント利益は要約四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. セグメント利益の調整額462百万円には、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社損益が含まれております。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費の内訳は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
従業員給付費用	19,617	22,958
減価償却費及び償却費	6,327	7,233
水道光熱費	2,381	2,019
支払手数料	1,390	1,723
その他	6,201	7,689
合計	35,915	41,622

(1株当たり利益)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
親会社の普通株主に帰属する四半期利益(百万円)	671	3,257
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する普通株主に係る四半期利益(百万円)	671	3,257
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する普通株主に係る四半期利益(百万円)	671	3,257
基本的期中平均普通株式数(株)	115,675,062	115,687,917
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に用いられた普通株式増加数(株)	629,589	882,803
希薄化後の期中平均普通株式数(株)	116,304,651	116,570,720
基本的1株当たり四半期利益(円)	5.80	28.15
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	5.77	27.94
希薄化効果を有しないため、希薄化後1株当たり四半期利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権2種類 (普通株式145千株)	新株予約権3種類 (普通株式256千株)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。